

脳卒中リハビリ看護とは??

～分野説明～

超急性期から一貫した効率的なリハビリテーションにより、脳卒中患者の重篤化を回避するためのモニタリングとケアを行います。そして再び、食べる、話す、トイレで排泄する、歩くなどの生活の再構築に向けたリハビリテーション看護を実践していきます。

～コンサルテーション例～

急性期合併症 予防	<ul style="list-style-type: none">・安静臥床による弊害（廃用症候群）・ポジショニング（脳卒中における良肢位とは）
重篤化回避の 支援技術	<ul style="list-style-type: none">・急性期におけるモニタリング・頭蓋内圧亢進予防技術
「起きる」援助	<ul style="list-style-type: none">・立位、背面解放座位の利点と実践のポイント
高次脳機能障害 について	<ul style="list-style-type: none">・運動、感覚機能障害の特徴とその対応について

脳卒中リハビリテーション看護認定看護師 役割と活動内容

● 役割

- 実践** 脳卒中による機能障害のある患者の QOL 向上を目指して、個別性・専門性の高い看護を実践する。
脳卒中患者のセルフケア能力を高め、生活の再構築を行うリハビリテーション看護を実践する。
- 指導** 脳卒中患者に提供する看護ケアに対して実践を通して指導を行う。また、スタッフの知識・技術を評価し、看護ケアに必要な知識・技術の提供を行う。
脳卒中再発予防のための健康管理について、患者および家族に対して指導する。
- 相談** 対象となる患者・家族および病院職員に対して、問題解決が図れるように援助する。
脳卒中患者・家族の擁護者として、相談・調整の役割を担う。

● 活動内容

1. 脳卒中急性期の脳組織への影響に対する臨床判断を的確に行い、病態の重篤化回避のためにフィジカルアセスメントやメンタルアセスメントに基づいた日常生活援助を看護計画として立案し、実践していく。
2. 話す、食べる、トイレで排泄する、歩行するなど、その生活再構築のプロセスをもとに社会復帰のためのセルフケア能力を回復するための看護計画を立案し、実践していく。
3. 急性期から病態に応じた活動性維持・促進のための早期リハビリテーションを実践し、ADL 拡大のための適切なリハビリテーション看護技術を実践していく。
4. 多職種との連携を図りながら、早期離床に向けた離床基準の作成および評価・修正を行っていく。
5. 意識覚醒のためのさまざまな刺激を、日常生活援助を通して実践していく。
6. 高次脳機能障害が日常生活に及ぼす影響を予測し、生活の再構築のために看護計画を立案し、実践していく。
7. 社会復帰に向けて、脳卒中再発予防のための健康管理について、患者および家族に対して指導していく。
8. 脳卒中リハビリテーション看護の実践を通じて役割モデルを示し、看護スタッフへの指導、相談に対応していき、看護の質の向上を図る。
9. 個々の障害に応じた自立支援のために、他職種と協働しチーム医療及び地域連携を促進するためにリーダーシップを発揮する。